

上咽頭癌

上咽頭癌に対する治療方針を表1に示す。ステージIを除く症例において、基本的に導入化学療法（ICT）を施行した。CDDP+5Fuを1クール施行したあと、放射線治療を施行した。腎機能など全身状態が良好な症例、高齢でない症例では化学放射線治療（CRT）としたが、化学療法の薬剤選択はICTの効果をもて決定した。頸部リンパ節転移が残存した症例では、頸部郭清術を施行した。

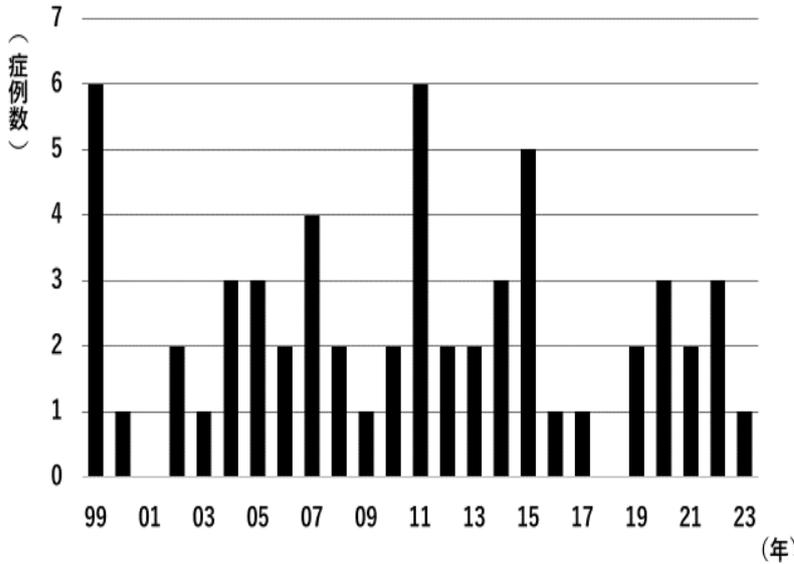


図1：上咽頭癌の年度別症例数

1999年9月～2023年10月までの手術症例数。年間1から6症例の治療を施行した。

- ・導入化学療法（ICT）
T2以上 or N+例に施行
CDDP+5Fuを1クール
- ・放射線治療
(化学)放射線治療 (C) RT
腎機能など全身機能を考慮して、化学療法併用を考える
ICTの効果があった症例はCDDP併用CRT
ICTの効果なかった症例はセツキシマブ等併用CRT
- ・頸部リンパ節
リンパ節残存例に頸部郭清を施行

表1：上咽頭癌の治療方針

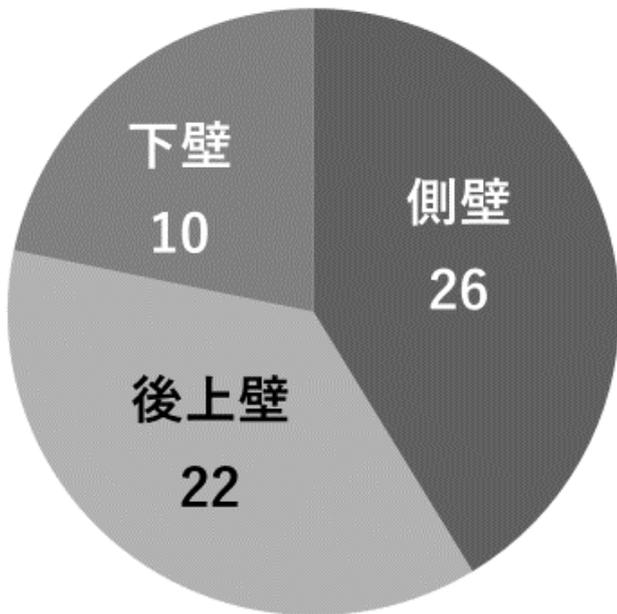


図2：上咽頭癌の亜部位別症例数

亜部位では側壁が最も多く、次いで後上壁、下壁の順であった。

T \ N	N0	N1	N2	N3	計
T1	5	2	3	2	12
T2	9	8	5	5	27
T3	2	2	2	1	7
T4	3	5	1	3	12
計	19	17	11	11	58

表2：上咽頭癌のTN分類別症例数

上咽頭癌58例中、T1が12例、T2が27例、T3が7例、T4が12例であった。N+は39例（67%）であった。

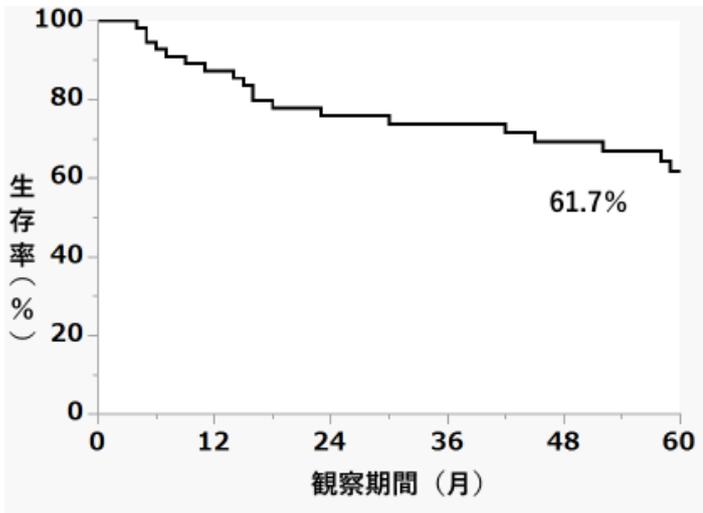


図3：上咽頭癌の疾患特異的生存率—全症例（58例）

全症例の疾患特異的5年生存率は61.7%であった。

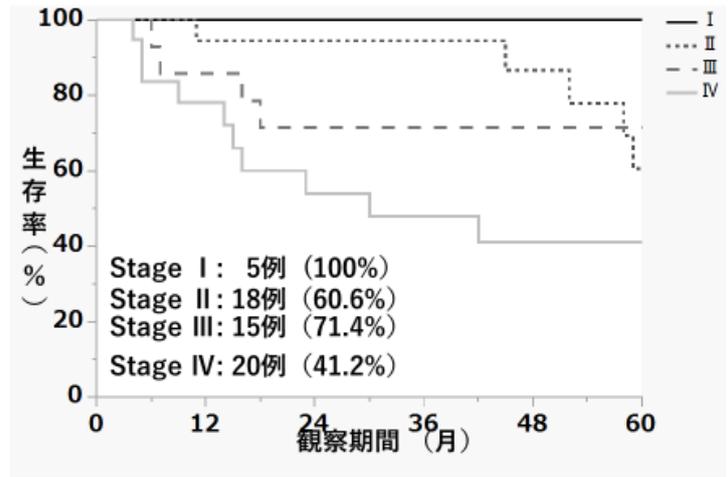


図4：上咽頭癌の疾患特異的生存率—ステージ分類別（58例）

ステージ別の疾患特異的5年生存率はステージIからIVでそれぞれ100%、60.6%、71.4%、41.2%であった。

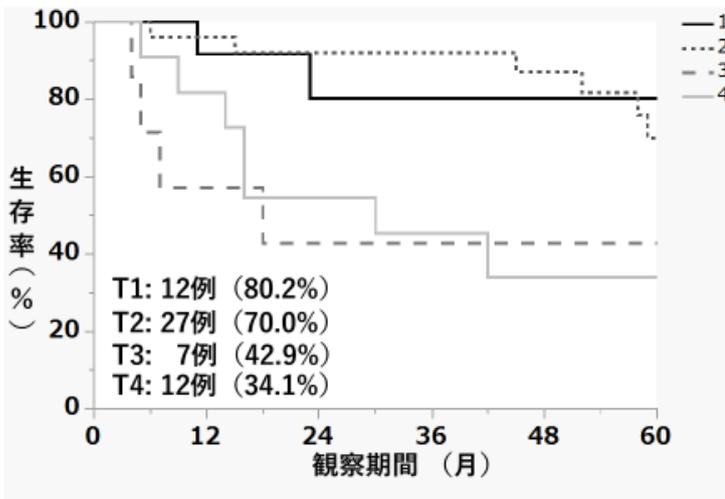


図5：上咽頭癌の疾患特異的生存率—T分類別（58例）

T分類別の疾患特異的5年生存率はT1からT4でそれぞれ80.2%、70.0%、42.9%、34.1%であった。

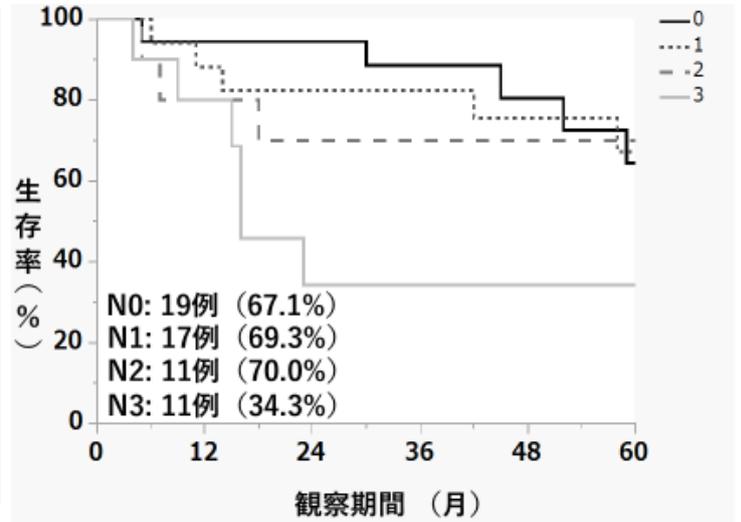


図6：上咽頭癌の疾患特異的生存率—N分類別（58例）

N分類別の疾患特異的5年生存率はN0からN3でそれぞれ67.1%、69.3%、70.0%、34.3%であった。